

「ポートフォリオ～試験・レポートにかわる評価法にむけて」

氏名 新田 文輝

吉備国際大学、社会学部・スポーツ社会学科

研究概要：

本研究では、従来の評価法にかわるものとして考案されたポートフォリオについて論じ、大学教育における活用を推奨したい。通常、教育界における評価法は、主に試験やレポートに基づくが、それは単なる一次的な知識の暗記や寄せ集めにとどまり、終了後は忘れがちである。

ポートフォリオは、従来の試験などでは測定できない個人能力の質的評価法である。それは学習の過程で、学生自らが、講義や収集した資料などに関する感想文や反省文を集めたもの。教師自身も自己評価を行い、学生は系統立てて知識を身につけ、同時に文章能力を高めるものである。自ら考えて、それを文章として書くことの少ない現在、ポートフォリオ方式はより適した評価方法と言える。

キーワード：

ポートフォリオ、評価法、過程重視、

本文：

通常、大学など教育機関での評価方法は、試験やレポートに基づいて行われるのが一般的である。しかし、これらにはさまざまな問題点がある。試験方式では、学習者が一次的、集中的に学習内容を暗記し、試験後は内容を忘れてしまうことが多い。レポート方式にも問題がある。例えば、課題の出し方によっては、レポートの内容が参考書からの事実や情報の単なる寄せ集めになりがちだ。また、最近の IT 技術の進歩に伴い、与えられたテーマをインターネットで検索し、その内容をそのままコピー・ペーストして提出することも可能である。事実、それと疑わしきレポートを最近提出する学生が増

えている。

本来ポートフォリオとは、画家、写真家、そしてデザイナーらが、各自の制作した作品やサンプルを集めて収納する「紙バサミ」を意味する。英語で「A collection of production」と呼ばれる所以である。

教育界におけるポートフォリオとは、学習者の感想文や学習内容の要約、調査研究資料とそれらに関する感想文や反省文などをまとめたファイルのことである。

ポートフォリオの歴史は1930年代のアメリカの教育哲学者ジョン・デューイにさかのぼることが出来る。デューイによると、「経験そのものだけでは、学生は何かを学ぶことはできない。重要なことは、経験を自分の中で咀嚼し振り返ることである。」このことから、学習における振り返りの重要性、そして学びにおける過程の重視が指摘された。

近年になり、ハワード・ガードナーは、この振り返りについて、それは「私は今何をしているのか、なぜこれをしているのか、何を成し遂げようとしているのか、それをどのような方法で行おうとしているのか、自分の活動をどのような望ましい形で修正しようとしているのかを、自分自身に問いかけることができる状態を意味する」と述べた。

その後、1980年代になりアメリカで「標準テストは、断片的な知識や事実の記憶を測るのが中心」とする批判が高まり、ポートフォリオ方式が注目された。最近になって、日本でも小学校の総合学習をはじめ医学大学や生涯教育でもポートフォリオ方式が使われた。

従来の評価方法と異なり、ポートフォリオ形式では、講義毎の学習過程を重視することからはじまる。ここでは、学生が各講義内容やテーマについて、感想やコメントなど自ら考えたことや反省などを自らのことばで書き綴る。同時に学習者は、講義内容に関連して興味を持った事柄を自らインターネットや参考書などで調査し、それに関する資料も添える。

私は、4年前からポートフォリオ方式を使っているが、その経験から大学における使用に関して幾つかの問題点を指摘したい。まず最初に、シラバスの評価方法欄に、ポートフォリオ

に関して簡単な説明を添える必要がある。また、履修条件・注意事項欄にも、毎週自習・復習をしなければならないことを明記しなければならない。

シラバスを読んでから履修したにもかかわらず、ポートフォリオ方式の講義・評価方法を理解していない学生は多い。そこで、第1回目の講義では、かなりの時間をかけてポートフォリオについて説明する必要がある。

私はその際、パワーポイントによる15分ほどの説明を行い、同時にその内容を配布資料として学生に与えている。また、同時にこれまでに学生が提出したポートフォリオの中で、最も優れたもの3点をサンプルとして見せている。

次に毎週の講義に関する感想文・コメントであるが、最初の3、4週間は学生が慣れないこともあるので、次週に持参してもらう。これは、ポートフォリオ方式をよく理解していない学生が、毎週書くべき感想文やコメントを期末になってから書くようなことがないようにするための配慮である。

また、学期の中間と最終講義で、「ポートフォリオ・セッション」(PS)という特別の時間(15分ほど)を設け、学生たちが各自のポートフォリオをお互いに見せ合って、感想を述べさせている。

PSには、2つの目的があり、一番目は半期のポートフォリオのまとめをさせることである。二番目は、それぞれ独自に作成してきたポートフォリオを見せ合うことで、学生間に相互的な知的刺激与えるためである。PSの際に、「～さんのポートフォリオは、画像や詳しいコメントが書いてあってすごいと思った」などの意見をよく耳にする。

提出されたポートフォリオをいかに評価するかであるが、まずそれに含まれているインターネットでの検索情報のプリント・アウトや色鮮やかなカラーの画像など外見的なコンテンツやページ数に惑わされないことが大切である。

評価基準としては、学生が講義内容についてどのようなことを学び、思ったのかなどの感想文と振り返り(反省)についてのコメントなどを中心に、学びの過程とインターネットや参考書で自習した学習内容などを重点的に考慮する方法を取っている。

ポートフォリオによる評価方法は、全般的に最近の学生は漢字が書けない、また文章能力が低下しているといわれる現在、大学においてもこれから大いに採用していくべき方法である。

参考文献：

鈴木敏恵、

「プロジェクト学習&ポートフォリオ活用」
www.suzukitoshie.net/2001/index.html

西岡加名恵、

「ポートフォリオ評価法—新たな評価基準の創出に向けて」図書文化、2003

溝口紳一郎、

「ポートフォリオ評価と日本語教育」日本語教育107号、105-114、2000